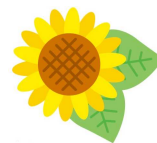


ひまわり



令和3年3月22日(月)

お彼岸



二十四節気の啓蟄（けいちつ）が過ぎ、生物の躍動を感じる頃となりました。まもなく学校のサクラも満開を迎えます。3月20日は、同じく二十四節気の春分でした。祝日法に記されている、「自然をたたえ、生物をいつくしむ日」という説明に納得がいきます。

天文学では、約365日かけて太陽の周りを回る地球が、春分点という位置に来た時を春分の日としています。この日、昼夜の長さはほぼ同じになります。ちなみに、秋分の日も、昼夜の長さがほぼ同じです。

春分の日、7日間続く「お彼岸（仏教行事）」の「中日（ちゅうにち）＝まん中の日」です。この期間に、お墓参りをする人も多くいます。

私も、20日は墓参りに行きました。墓参りに行くのは、盆と正月、そして年2回のお彼岸くらいです。郊外にある墓地は、普段は人影を見ることもほとんどありません。しかし、この時期は様子が変わります。あちこちから聞こえてくる読経（どきょう）、線香の心地良い香り。何とも落ち着いた気分になります。その中で、自分につながるご先祖様に、感謝の心で手を合わせます。

ところで、3月21日の産経新聞のコラム（産経抄）に、「昨年、業者が代行するリモート墓参り」という言葉が出てきました。本校の地域のお坊さんも、新型コロナ以降は、「オンラインお参り」も檀家（だんか）さんの要望に応じて実施していると聞きました。コロナで様変わりした仏教行事に驚くとともに、心が伴えばそれもありかと思えます。

ご先祖様がいたからこそ、今ここに自分が存在している。命に妙なるものを感じずにはられません。連綿とつながる命を大切にしたいものです。

二十四節気：1年を24の時節の区切りとしたもの。立春、夏至などがある。

啓蟄：「冬ごもりの虫が這い出てくる」という意味。

彼岸：春と秋の仏教行事。彼岸はあの世のこと。この世は此岸（しがん）。

学校ホームページで、日々の教育活動のようすを公開しています。どうぞ、本校ホームページを閲覧してください。

【東住吉中学校】で検索

